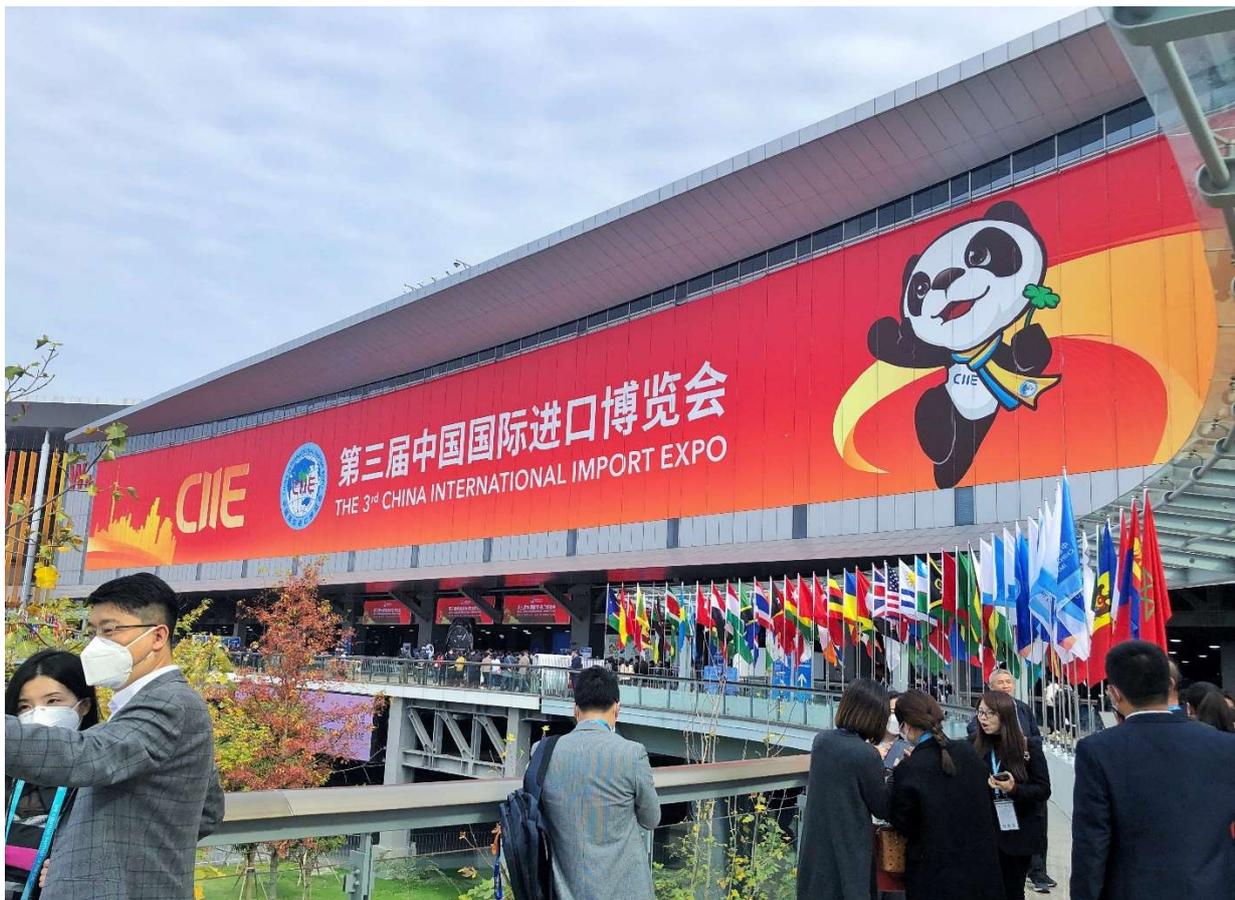


中国輸入博覧会での福井県上海事務所のブース出展

福井県上海事務所 永田 暁史

11/5 から 11/10 にかけて、第3回中国輸入博覧会が上海で開催されました。今回はコロナウイルスが流行している中での開催で、例年とは異なる部分が多数ありましたが、福井県上海事務所としては、第3回博覧会で初めて、独自ブースを設け、福井県企業の出展を支援しました。

この中国輸入博は、輸入品をメインにした博覧会であるところが、特徴的と言われています。中国が国家を挙げて取り組む大規模な輸入博覧会として、非常に有名です。



第1、2回の開催では、いろいろな情報が錯綜しました。開会の1、2週間前に急遽、上海市は開催期間中の3日間を休みとしました。私も第1回の開会期間中に、用事があり、事務所に行ったときは、公安の方からビルに入ることを止められたことを覚えています。また、いたるところで交通規制等により、渋滞が起こったのも記憶に残っています。

過去に輸入博覧会に参加された企業からは、持ってきた商品が全部売れてしまって、最終日は商品がない状況であるほど、活気があったとか、JETROの方からも今まで多数の展覧会に参加しているが、これほど盛況な展覧会はないとの話も伺いました。また、中国各地方政府も代表団を連れて、あたかもノルマがあるかの如く、多数参加しているとも伺いました。そのようなこともあり、第3回博覧会では福井県上海事務所としてもぜひとも参加したいと考えておりました。

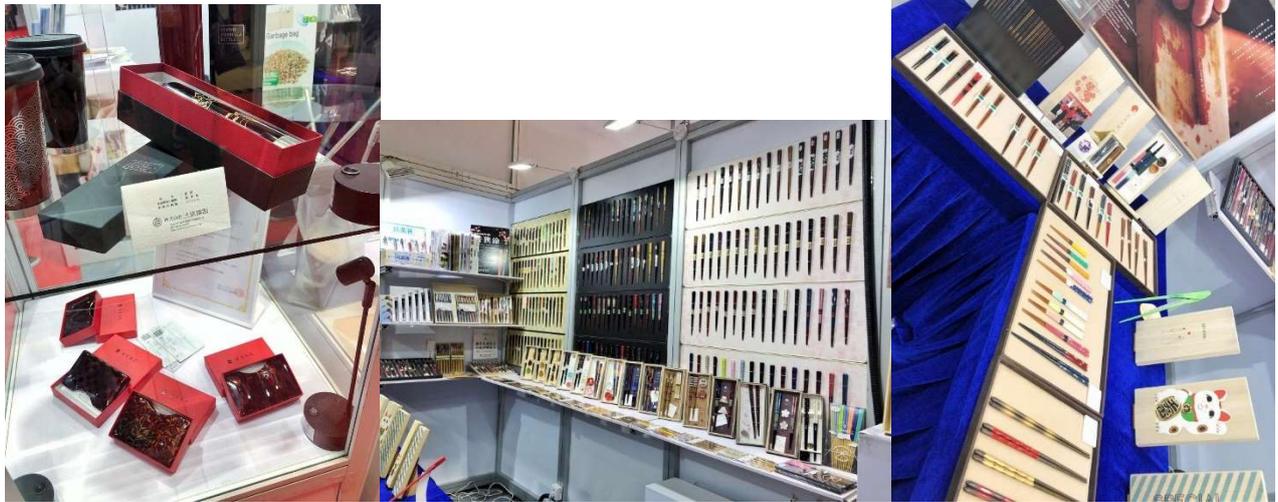


福井県で中国に出てみたいという話がある企業は、メガネ、箸、漆器など伝統工芸品が多いので、JETROが設けている食品医療ブースではなく、生活用品館のところにブースを設ければいいと思っていたところ、そこでブースを確保できそうだという貿易会社のお話を伺い、そこで一緒に協力して、ブースを設けることとしました。



輸入博のブースは例年人気があると聞いていましたが、今回は、コロナウイルスが広がっている中なので、外国企業の参加が難しく、急遽取りやめるところもあると伺いました。逆に輸入博主催者からもっとブースを提供できるとの話も出ていたそうです。

福井県上海事務所では2ブースを確保し、1ブースを2区画に分けて、計4企業が出展できるようにしました。申し込みをしたところ、すぐに募集定員に達し、やむなくお断りをしなくてはならない企業も出てきた次第です。箸2社、漆器1社、袋1社の4社が出展することになりました。



今回の輸入博はコロナの中、行われました。中国はコロナに対し、厳格な規制を取っており、外国から中国に入る場合、2週間のホテル隔離が義務付けられました。このことから、輸入博に出展する企業の方は、この規制の動向を注視し、ぎりぎりまで中国に行けるかどうか気をもんでいました。結局、開催までこの規制が緩まることはなかったので、福井県企業の方で輸入博に向けて、中国に来られた方はいらっしゃいませんでした。すべて、中国現地の代理店、協力企業等に依頼して、販売商談等を行うこととなりました。

また、コロナ対策として、参加企業はもちろん、一般参観者もすべて、展覧会場に入る場合は、事前にPCR検査が必須となりました。PCR検査も有効期間が7日間とされ、それを過ぎると、再度PCR検査を受けなければ入場できないというような厳格さで、例えば、準備から入る事業者の方は10日程度展覧会場に入る必要があり、2回PCR検査を受けなくてはならないなどの話も伺いました。

当事務所でも、開催の2日前に一般の病院にPCR検査を受けに行きましたが、案外簡単に検査をすることができました。午前中に検査を行い、午後4時には検査結果が判明するような仕組みでした。その検査結果を輸入博の入場申請サイトにアップロードして、輸入博開催の前日に、近くのホテルに行ってやっと入場許可証を取得することができました。

展示会期間中もコロナ対策は徹底していました。中国は他の国と比べると、コロナが一早く落ち着いている国です。しかし、会場内は、マスクが必須ですし、会場内では、人と人の距離を1m開けるように何度も注意を受けました。会場内のレストランで食事したときは、机に対し、椅子が2つまでで、一方向

を向いてしか座って食べることができない仕組みでした。食事期間中は、長蛇の列で、お客が殺到していましたが、コロナ対策は徹底していて、レストラン内は人数制限が守られていました。

今回、展示会に合わせて、福井県の友好姉妹提携先である浙江省からは、大規模な輸入博覧会交易団が上海に来訪しました。当方も招待を受け、この浙江省交易団の調印式や重要輸入商品プラットフォーム説明会の会合に参加しました。何百名の参加者があり、ホテルの宴会場を貸し切り、盛大に行われました。中国地方政府のこの輸入博覧会にける意気込みをここでも感じずにはられませんでした。

展示会会場付近の商業施設などでは、輸入博終了後も輸入商品に対する関心を持ってもらおうと、各国の輸入商品館が開店しており、いろいろな各国の商品をここで買うことができるようになっております。日本館には、伝統工芸品はもとより、現在若者に人気の日本のアニメのフィギュア、化粧品、顔パックなども売られていました。



展示会の福井県企業の様子については、開幕式の1日目は、一般参加者が入れないということで、お客様が少なかったです。2日目以降は、お客様も多数見えられて、商談も多数行われました。例年の輸入博と比べると、少しお客の数は少ないとの声もありました。ただ、ただら見るだけのお客さんではなく、PCR 検査まで受けてこられているお客様なので、中身の濃い商談ができたという声が多かったです。ぜひとも来年も出展したいとの声もいただきました。

輸入博では、通常の展示会のブース(9㎡)と異なり、1ブースが6㎡でした。福井県の場合、それを2社で共有して使用したので、少し狭いというのが参加者の方の感想でした。今回は、ブースの確保が難しい中、できる限り多くの企業に参加していただきたいとの思いで、企画しましたので、来年どのようにやっていくのがいいのか改めて考えていきたいと思えます。

また、コロナの中で、展示会会場に来られない出展者に対し、ネットで商談をする機会を設けるブースもいくつか見受けられました。中には、商品が間に合わず、ブースにカタログだけを置いて、ネットで商談を受け付けるブースもありました。今後、コロナに合わせて、どのような形式の展示会運営をしていけばいいか、今回の展示会も参考にして、検証していかなくてはと考えています。

そのほか、日本企業のブースをいくつか訪問しましたので、その内容も報告いたします。初めに、今回初めて輸入博に出展したユニクロです。服飾のコーナーに大きなブースを構えていました。ユニクロの代表作であるウルトラライトダウンジャケットの高さ2.7m程度の大きな展示が目を引きました。ダウン

ジャケットの綿は普通のもの20倍の量だそうです。シンプルかつ高品質な製品の特長を十分に生かし、おしゃれな展示内容に、ユニクロの今回の展示会にける意気込みをひしひしと感じました。ユニクロの中国の売上げが世界中の売上げに占める割合が非常に高いと聞いているので、その意気込みを感じさせる展示だと感じました。



そのほかにも、日本の JINS の眼鏡のコーナーも伺いました。そこでは、特殊な眼鏡をかけて、本を読むと、そのメガネの目の間の部分の機械が、その人がどれだけ集中して、本を読んでいるか判断できるというものです。そのほか、パナソニックのコーナーでは近未来の生活様式の住宅を見学しました。トイレ、洗面台、寝室がデジタル化され、例えば、寝ているときの体温でその人の体調を自動測定したり、トイレでも尿などの PH なども自動測定され、それが、可視化できるというものです。そのほかにも、介護用品も多数展示されていました。軽くて使いやすい車いす、一人でも起き上げられる介護ベッド、それらがシステムで連携され、老人にやさしい生活様式も展示されていました。これから中国でニーズが高まってくるといわれている介護用品も重点的に説明がなされていました。そのほか、昨今の健康ブームも反映してか、今回初めてスポーツ用品の展示もなされ、NIKE のコーナーではバスケットボールのフリースローの体験も行われていました。





第3回目となる今回の中国国際輸入博覧会は、2,000超の企業が参加し、成約額が726.2億米ドル（7兆6,300億円）となり、前回と比べて2.1%増加と発表されました。10日正午までの累計来場者数は延べ61万2,000人でした。前年の実績（延べ91万人）と比べると、32.7%減ったこととなります。今回の出展、参観を通して、この輸入博覧会は、コロナ対策を徹底しながら、中国の消費景気回復を内外に盛大に示す展示会であったと感じました。